

ピアホームだより

2023. 5. 10

新しい生活支援員ご紹介！

3月から週に2回お世話になっております、沖原寧子（おきはらやすこ）と申します。本職は、主に高齢者を対象とした介護保険外サービス「なんでもやさん」です。

先日は、「どうしても崎陽軒のシウマイ弁当を死ぬまでにもう一度食べたいのだけれど、電車にはもう乗れない」という方のお使いでお弁当を買いに行きました。ヘルパーさんでは行き届かないキッチンやお風呂の大掃除、ごみの分別ももちろんやりますし、人力車に乗ってみたいという方がいれば、車いすの方を連れて、浅草まで遠足に行ったりもします。

今でこそそんな毎日ですが、以前は、小平の国立精神神経医療研究センターで5年ほど非常勤職員をしていたことがありました。そのような経歴から、こちらにも関わらせていただいております。

高齢者や障がいを持たれている方のお相手ばかりで疲れませんか？

という質問をよく受けます。率直にお答えしますと、一切疲れません。むしろ、私は一緒に遊んでいるだけなので、それが仕事になるなんて恐縮です、というのが本心です。こういうことを言うと、女神さまですか？というような、畏敬の言葉を頂戴したりもして、得をしています（笑）。

私は、認知症も精神のご病気も、身体のハンディと同じだと思っています。生まれつき足に欠損がある方は、できないことがわかりやすいので、何のお手伝いが必要なのか、わかりやすいですよ？なのに、脳にできないことがあると、途端に、何のお手伝いが必要なのかがわかりにくくなってしまいます。私は、高齢者にしろ、精神障がい者にしろ、身体障がい者にしろ、健全者にしろ、必要なお手伝いは、できないことに「共感」すること、だと思っています。私にだって出来ないことがありますからね、それと同じです。

健全者のできないことなんて、できないことに入りませんよ！

仰るとおりです。私は、自分の身体の距離を測ることが苦手なのですが、そんなことはできなくても生きていけるので、介護保険の適用は受けません。ですが、日常生活において何が起こるかという、例えば、電車でひとつだけ空いている席に座ろうとすると、ちょっと隣の人に重なって座ってしまいます（笑）。いつも、重なって座ってしまった方に、ゴメンナサイって言っています。そんなですから、球技は何もできないです。自分の範囲がわからないのに、球との距離を測るなんて絶望的。高校のクラスマッチのときはみんなに迷惑をかけるので超地獄でした。でも、サボっているわけではないじゃないですか！本当にできないだけ。苦手なことは誰にでもありますよね。難しいことを無理にやるより、できる人に任せることは、堂々とした選択肢のひとつだと考えています。みなさまの笑顔の時間が一秒でも多くなるよう、私は、私にできることをやらせていただきます。これから、どうぞよろしく願いいたします。

5月の予定

5月20日：NPO 法人アドボケイト会総会